

ALA-FeSTAの活用法（高機能液肥との連携）

既存の高機能液肥をプラスすることで更なる効果！！

【Easy】ソッコウ1号で手軽に！ 【Perform】F14で機能強化！

総合葉面散布剤「ソッコウ1号」との相性もバッチリ！2種混合で大きなパフォーマンスを発揮！



「鉄力あくあF14」「ホスマグ」をプラスして葉緑素生成を大幅UP！



【Plus PK】「ホストツブ」

速効性のリンカリをプラスして果菜類や花の栽培に。



【Plus Ca】「ホスカル」

ペンタキープGに比べホスカルの成分と競合するNKの量を減らしました。



【Plus N】「アミノ酸」

ネイチャーエイドをはじめ、アミノ酸系の高機能液肥との相性も抜群です。※サカタ液肥GBと混合する場合はソイルマスターで中和して使用下さい。



ケース① そのまま使用（育苗）～混合（ペンタキープGと同じ使い方）

「ALA-FeSTA」はこの1剤で効果をしっかり出すために設計されています。生育初期、特に育苗期は単剤1000倍の葉面散布でしっかり効果を発揮します。栽培後半や肥料のパターンを変えたい場合はペンタキープG同様、他の高機能液肥との混合して散布します。

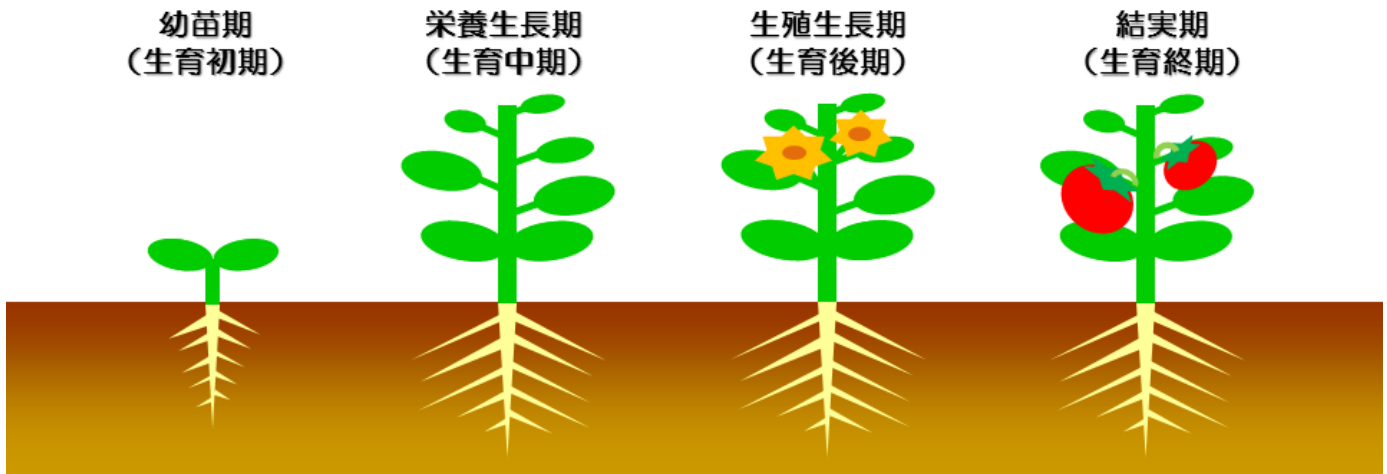
ケース② サカタ液肥GBとの使い分け（葉面散布と灌水施用）

「ALA-FeSTA」が葉緑素生成に作用（主に葉に効果が出る）ことから葉面散布を推奨しています。一方、「サカタ液肥GB」は植物の浸透圧をコントロールしてストレスを回避する（主に根に効果が出る）ことから灌水施用を推奨しています。どちらも植物の受けるストレスを回避して低下した代謝を回復する効果があります。

使用の目安（1ヶ月に1～2回、10アール当り、1000倍希釈、原液量）

- *ホウレンソウ・こまつななど軟弱野菜、パンジーなど鉢花類：70～100ml
- *いちご・トルコギキョウなど切花類：100～150ml
- *トマト・きゅうり・なす・ピーマンなど果菜類：150～200ml

生育ステージからみた高機能液肥の使用タイミング



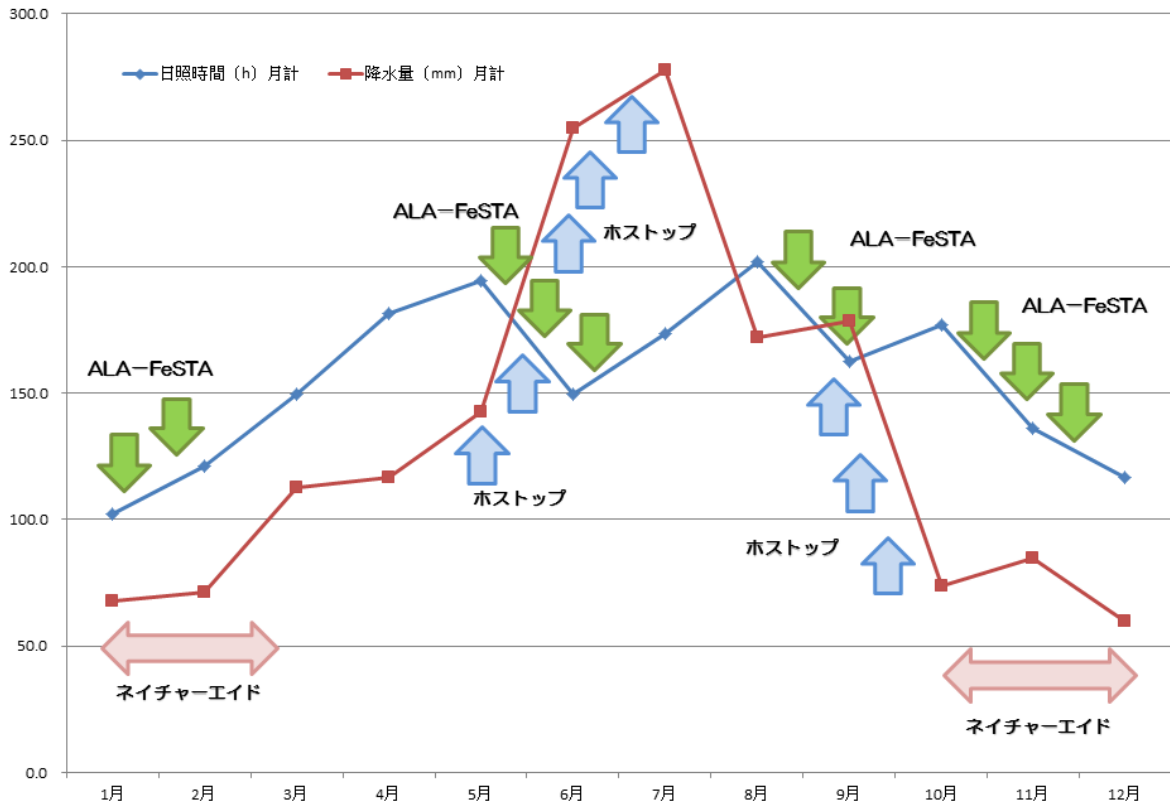
幼苗期は過不足ない十分な栄養状態に置く。

栄養生長期はNKの比率や量が重要。

生殖生長初期以降は各養分のバランスが特に重要 (Caや各種ミネラルのバランス)。



例) 福岡の気象統計からみた高機能液肥の使用タイミング



※ALA - FeSTA は連続的に日照量が落ちているタイミングで使うと効果的です。全国的に5-6月、8-10月、日本海側では11~翌2月あたりの使用がおすすめです。